

平成 29 年度 第 2 回講演会 記録

日 時	平成 29 年 4 月 22 日 (土) 13:00～16:00
会 場	此花会館 梅香殿
講 師	日本に健全な森をつくり直す委員会 事務局長 天野礼子先生
演 題	「健全な森をつくり直す」とは？
備 考	参加者数 185 名 (会員 161 名、非会員 24 名) 聴講 0 名、 記録 山野 渉

19 才のときに釣りをはじめたアウトドアライター天野礼子先生は、日本中の川、湖、海辺を歩くうちに、日本の河川事業（ダム建設）のあり方に疑問をいだき、文学の師・開講 健氏と共にリーダーとして、政治家や著名人を引き込み長良川河口堰建設反対運動を展開されたことはよく知られています。平成 16 年、田中克先生に「森里海連環学」を紹介されたのを機会に、川以上に悲惨な状況に陥った森を再生するため「日本に健全な森をつくり直す委員会」を立ち上げ、林野町の事業を支援する活動を推進されています。



【講演要旨】

1. 日本の川の現状

たくさんのダムが出来、ダム湖の中に砂が溜まるようになった。天竜川ではダム湖の中でショベルカーで砂を取っている姿が見られ、大井川ではダムには砂が溜まり水害をおこすようになった。このようなことは全国のダム湖で起こっている。

山からの砂がダムで堰止められ、海辺に供給されないの、砂浜が小さくなり生物が生きにくくなっており、ブロックで砂を止める工事をしなければならなくなっている。長良川では河口堰が閉じられて直ぐに、その下流に環境ホルモン(白く泡立っている)が溜まり、その後環境ホルモンがヘドロ化している。

2. 世界の動き

- ①ドイツではライン川堤防に水門を設け、洪水になれば遊水池に水を入れる政策を進め、政府が買い取ったその土地(遊水池)にいろんな植生が戻ってきている。
- ②オーストリアでは真っ直ぐな川を以前のように蛇行させることにより土砂が堆積し、そこに人々が集うようになった。
- ③アメリカでは小さなハンマーでダムを壊す長官のパフォーマンスに共感され、ダムを壊すことが始まっている。
- ④日本ではようやく荒瀬川のダムが撤去される。(我が国初めての撤去)
- ⑤カナダは過去 100 年間、山の斜面を皆伐し、100 トントラックが走る林道を造り、雨のたびにサケが遡上する河川に土砂が流込んで大きな岩が埋まってしまい、サケの生活環境を奪っていた。一方、クマが食べ残したサケが森の栄養分になっていることが分り、カナダ政府はサケが遡上する河川を適切に管理するための経費を、木材伐採時切り株税を課してまかなうようにした。

3. 林業の再生

2003 年林野庁の一部の人々が今の林業ではいけないと気づき「新流通・加工システム」という予算がつき翌 2004 年「新生産システム」がつくられた。外国の木材を挽いている製材所に日本のスギを挽かせる工場を作り、山に作業道もつけ木材が出やすくなることが始められた。「日本に健全な森をつくり直す会」は、この林野庁の動きを応援するため、2009 年に農林水産省がつくる「森林林業再生プラン」づくりに 5 名の委員を出し、天野氏も「作業道・路網委員会」として協力することになった。

4. 元気な林業をつくろう

「無農薬野菜を作って 自分が食べ 余剰作物を都会に送り副収入を得る」それができたら林業だけでも食べていける見本をどこかにつくろうと考えた。

島根県の高津川流域は山の上まで植林し、急斜面・狭い作業道のため木材が切り出しにくい状況にあることから「森をつくり直しその森が川を支えることができる日本が作れる」場所であると思った。そこでは子供たちが安全な食物を食べ、川に行ったり山に行ったりできるようにしたいと思っている。

【所感】

先生は若いころから自然を破壊する開発に疑問を持ち、川・海・森を再生し、子供たちが安心して川や海で遊べる環境を作るための活動を続けられている。

今回の観察会で、高津川流域での活動(有機農業・森林の手入れなど)の実際を「見て・聞いて・知る」体験をさせて頂くことを楽しみにしています。

以上